



- 矢作川宣言
- 第1回矢作川「川会議」
- 今月の一枚
- 太田川多自然型川づくり
- 第1回モニタリング調査を終えて
- 平戸橋周辺の自然観察(2)
- 研究所の調査風景

豊田市矢作川研究所

〒471-0025

愛知県豊田市西町2-19 豊田市職員会館1F TEL 0565-34-6860 FAX 0565-34-6028

homepage <http://www.hm.aitai.ne.jp/yahagi/index.html> e-mail [yahagi@hm.aitai.ne.jp](mailto:yahagi@hm.aitai.ne.jp)

\*Rioはホームページ上でもご覧になれます

# 矢作川宣言

## ● 第1回矢作川「川会議」 ●

豊田市内の河川愛護団体等11団体主催の第1回矢作川「川会議」が、去る5月12日矢作川古単水辺公園で開催され、以下の「矢作川宣言」が採択されました。

この「川会議」のイベントとして矢作川写真展と矢作川伝統漁具展が、4月23日から5月16日まで市役所ロビーで開催されました。当日は古単水辺公園でシンポジウム(120名参加)、水辺コンサートと交流パーティー(261名)、対岸の越戸公園前の矢作川分流では親子マス釣り大会(195名)が行われました。実行委員会代表は矢作川を筏で下る会代表の碓さくらさんでした。  
(新見幾男 川会議事務局)

### 宣言全文

豊田市制50周年、矢作川漁業協同組合創立100周年、近自然型・古単水辺公園着工10周年、矢作川筏下り大会15周年の記念すべき年を迎え、この4団体の呼びかけにより、矢作川愛護諸団体主催の第1回矢作川「川会議」が開催される運びになりました。

川の環境と文化は全国一律ではなく、それぞれ個性的でローカルな存在です。矢作川の個性を研究し、活かし、その流域の環境と文化を私たちが享受するための道筋として、ここに以下の10項目の「矢作川宣言」を提起します。

#### ■清流の復活・人と川の関わりを考える「矢作川の日」の制定

1. 毎年5月の第2土曜日を「矢作川の日」と定め、こ

の日を中心に、矢作川の清流を取り戻す流域市民の活動を展開し、人は川とどう付き合えば良いのかを考えます。

2. 「矢作川の日」は、子どもたちを川に呼び戻す日でもあります。小川や支流での川遊び、本流で魚釣りの復活に努め、そのための環境整備も提案します。そうした河川網づくりによる水辺環境整備を地域づくりへ発展させたいと考えます。

#### ■森・川・海一体の流域環境保全活動と研究の推進

3. 森・川・海一体の広い視野で矢作川の河川環境を考え、特に森・川・海を往来するアユ、サツキマス、ウナギ、カニ等の回遊性の水生生物の生息環境を重視します。矢作川の水生生物の研究・繁殖保護機能を兼ねた矢作川水族館の創設を提案します。



筏下り大会 2001年5月13日撮影



親子マス釣り大会 2001年5月12日撮影

4. 矢作川の清流の源は「源流の森」にあると認識し、源流の森の研究をすすめ、都市市民の協力による森林整備を呼びかけます。

#### ■河川運用への積極的提言と行動の推進

5. 市民の水辺利用を無制限に拡大せず、野生生物の生息空間も確保する方向で、矢作川での「人と自然との共生」のあり方を調査研究します。流域市民が末永く誇り得る「質の高い矢作川環境」を創造するためです。

6. 矢作川はダム群による貯水、取水で徹底利用されている全国的にも珍しい川です。「良く利用され、なお美しい矢作川」を実現するために、河川環境に配慮したダム運用のあり方について研究し、提言します。

7. 矢作川漁業協同組合が豊田市の協力を得て「矢作川学校」の開設を計画しています。矢作川の河川環境や川の文化を守り、継承する人材を養成し、さらに内

水面漁業の未来の担い手である少年釣り師たちも育てる川の学校です。私たちも「矢作川学校」の開設と運営に積極的に参加します。

8. 河川利用の市民モラル確立や、河川環境の改善、水生生物の産卵・繁殖保護等のために、豊田市を中心とした河川関係団体で、総合的な河川の案内・指導・監視組織「仮称・矢作川レイジャー」を創設するよう提案します。

#### ■矢作川流域ネットワークにむけて

9. 矢作川「川会議」は豊田市内の中流域でスタートしましたが、豊田加茂広域圏全域での活動をめざし、矢作川流域をはじめとして全国的な交流活動も行います。

10. 矢作川愛護の市民団体は、国・県・市町村の河川管理、豊田市矢作川研究所の河川環境研究に積極的に協力します。矢作川流域の緩やかな連携にむけて、ネットワークの核になる矢作川「川会議」の事務局を豊田市矢作川研究所内に置きます。

平成13年5月12日

矢作川「川会議」実行委員会

#### 実行委員会構成11団体

矢作川を筏で下る会、豊田市矢作川研究所、豊田市河川課、矢作川天然アユ調査会、矢作川漁業協同組合、古岸水辺公園愛護会、波岩水辺公園愛護会、石倉水辺公園愛護会、アド清流愛護会、梅坪有志会水辺愛護会、御船せせらぎ広場愛護会

ハナアブの一種とノビル（一九九九年五月二日）

田中蕃 撮影



今月  
の  
一  
枚

だいたがわ

# 太田川多自然型川づくり

～第1回モニタリング調査を終えて～

準用河川太田川は松平郷を水源とする小河川です。太田川については、リオNo.34で太田川河川愛護会会長の平松清文さんに紹介していただきました。太田川（豊田市豊松町）では山間部のは場整備事業の活発化にともない谷あいの小川がその姿を変えつつあるなかで、日常の自然を確保しようと多自然型川づくりが実

施されてきました。工事は豊田市河川課によって平成12年春に終了しました。

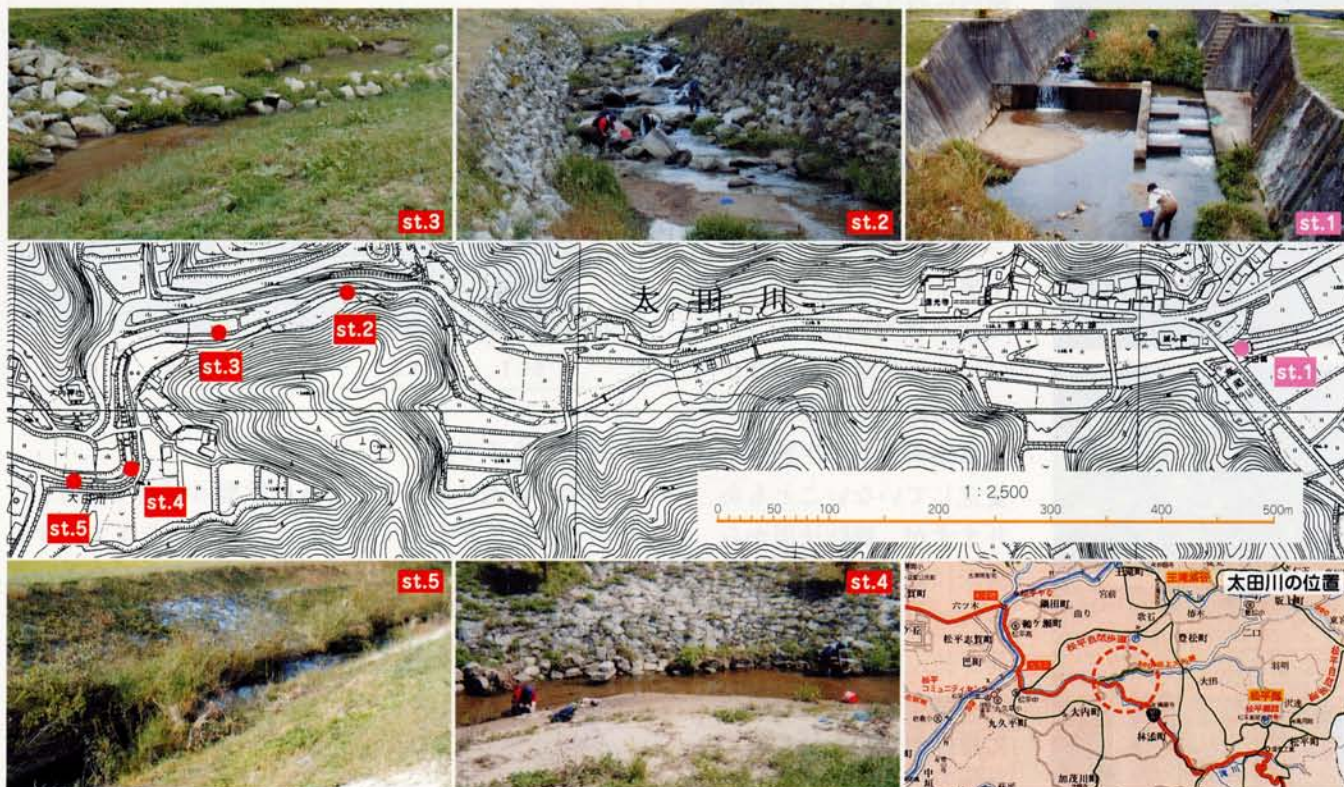
矢作川研究所では工事後、生物のモニタリング調査を実施し多自然型川づくりの効果を検証しようとしています。今回は平成12年度の調査結果を報告します。

## 調査場所

調査は多自然型川づくり区間で4箇所と対照として改修されていない場所を選び計5箇所で行いました（地図参照）。

- **st.1** 対照（多自然型川づくりが施されていない区間。2面コンクリート護岸が施されている）
- **st.2** 渓流（岩が露出し、地山がせまる渓流区間）
- **st.3** ピオトープ（川幅は比較的広く本流の横に小さなワンドが造られた区間）
- **st.4** 石張護岸（川が大きく湾曲し、左岸に石張護岸が施されている区間）
- **st.5** 床止工（水深に大きな変化がみられ、トロ場と平瀬が形成されている区間）

各地点で水辺の植物、魚類、底生動物について調査しました。植物は出現種や帰化植物の割合を、魚類や底生動物は出現種や個体数を把握しました（グラフ参照）。



## 調査結果

平成12年春と秋に現地調査を行いました。対照区を除く調査地は「多自然型川づくり」の工事が終わって間もないうえに、平成12年9月の豪雨によって不安定な状況にさらされました。多自然型川づくりの評価を検証するには、今後さらにデータを積み重ねていくことが必要です。今は評価を行う途中段階といえますが、昨年の結果を調査地点間で比較してみました。

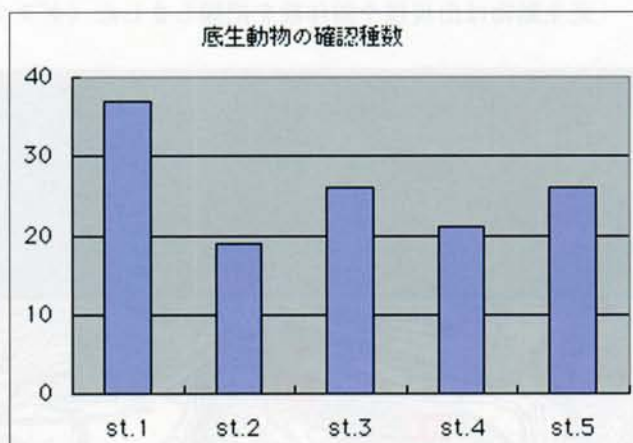
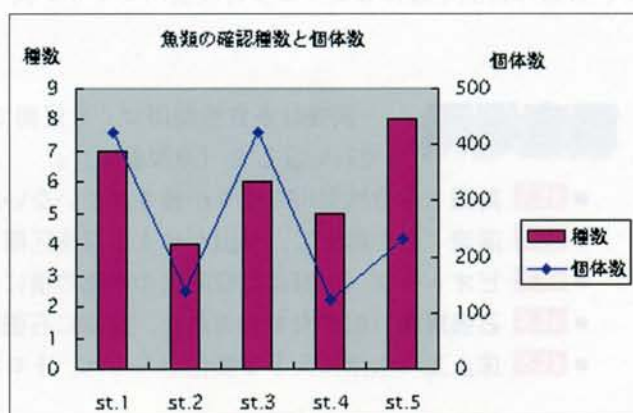
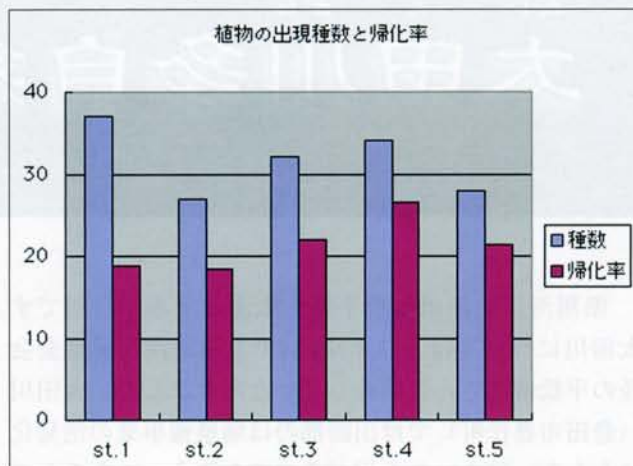
確認された魚類・底生動物の種類や個体数が多かった地点はピオトープ区 (st.3) や対照区 (st.1) でした。これに対して溪流区 (st.2) や石張護岸 (st.4) を施したところではそれらの種数、個体数が少なく貧弱な生物相となっていました。

ピオトープ区 (st.3) では川幅が広く、本流の横に止水環境のワンドが施されています。対照区 (st.1) は兩岸をコンクリート護岸で固められていますが、河道内の堆砂地のほぼ全体を草本植物が覆っており流速や水深に変化がみられました。これらの地点では水生

生物の生息環境が多様となり豊かな生物相を形成したと考えられます。

一方、溪流区 (st.2) や石張護岸 (st.4) では河床が固定され遊びの部分が少ないため堆砂しにくく植物の生育も貧弱な傾向にありました。水際に根を張ったり水面を覆う植物が少ないとそのような場所で生息する魚類や水生昆虫も少なくなると思われられます。

岸辺の植物をみると、工事を行ったst.2からst.5の地点は対照区 (st.1) に比べ帰化草本の割合が高い傾向にありました。工事後間もなく生態系が安定していないこともありますが、堤防法面から河床に置かれた石が固定されており、石と石の隙間が狭く植物の根が深くおろせないことや河道内に堆砂地が少ないために植物が定着しにくいこと



が指摘できます。

時間の経過にもなって多自然型川づくりを施した場所も徐々に安定していくことが期待されます。今回の調査結果をもとに、かつて谷あい存在したような様々な生物が生育できる豊かな小川の生態系を形成させるために『多自然型川づくり』に対して次のような提案をします。

# 今後の多自然型川づくりへの提案

## ① 遊びの部分をつくる

河辺に自然度の高い植物群落を増やすには、堤防面から河床にかけて、石をきっちりと隙間なく積まない、護岸に支障のない範囲で石が動くようにする、堆砂しやすいポイントを作るといった遊びを工夫することで、植物の定着と群落の発達を促す効果が期待できる。水際に植物帯が形成されるとそこは魚類や水生昆虫の隠れ場所や仔稚魚の成育場として利用される。

## ② 工事後の管理

多自然型川づくりは工事が終了した時点で完成するのではなく、その後の継続的な管理によってゆっくり完成させていく手法である。したがって、工事後の管理についても、生物の多様性をまもる方法（たとえば、草刈りの時期や場所を選ぶ、帰化植物だけを選択的に抜き取るなど）を考慮し、地域の特性や住民の希望も反映させどのように管理するのがよいか検討する必要がある。

## ③ 工事後のモニタリング調査の時期

多自然型川づくりといっても、河川の生物に大きな影響を及ぼす工事を行ったことには変わりがない。工事後、生物が回復するにはしばらくの期間がかかるため、多自然型川づくりの工法を検証するには、この回復期間を考慮して、工事前、工事直後、そして以降は数年の間隔をあけて、調査方法を変えずにモニタリングを行うことが適切だと思われる。そのモニタリングの過程で、どのような工法がより早く多様な生物を川辺に回復しうるかを検証できるであろう。

本年度も太田川の生物モニタリング調査を続けます。多自然型川づくりを施された太田川との関わり方を太田川について一番よく知っておられる地元住民の方々とともに模索していきたいと考えています。

（編集 内田朝子 豊田市矢作川研究所）

## 平戸橋周辺の自然観察(2)

山原 勇雄

矢作川は、私たち豊田市民にとって貴重な存在であることを最近になって再認識するようになったのは私だけでしょうか！地図を見るとわかるように豊田市の中心部を南北に蛇行しながら流れているこの川は、北部は藤岡町、足助町を通り、市街地の東部を抜け、南部で岡崎市や安城市の田圃にうるおいを与えながら通過しています。

矢作川は水利用の役割を十分に発揮しつつ流域の動植物に大きな恵みをそそいでいます。近年では、自然環境に関心が高くなり、川を大切に作る運動が各自治区のテーマとして取り上げられていることは、私たち自然を愛する者にとってうれしいことです。川を見れば地域の自然に対する取り組み方がわかるバロメーターとよく言われます。川岸の春は野草の花々が咲き乱れ河原のエノキの中では野鳥が唱って飛びかいチョウやトンボが舞う様は、今も昔も変わらないのどかな風景です。

夏には、支流の小川にホタルの舞うのが珍しくなくなり、遠くなった古き良き時代をみんなで再現しようとしていることがありがたく、人間社会と自然

の共存を願っていることを知らされます。我々一人一人が河川とふれあう機会を多くもち、優しい心が良い環境を育てることに気づいて、後世の子孫へ残せるような環境教育を学校だけでなく家庭でも取り上げるべきだと思います。IT時代の突入でついつい便利なものに取り付かれそうな昨今ですが、良き山河があってこそ海の幸を口にすることができます。良き生態系が健康に暮らしゆける源になっていることを、個々の肝に銘じて実践したいものです。

市民が環境を見直す機会を目的に発足した平戸橋自然環境観察（草だらけの会）は毎月第4日曜日、午前9時30分より正午まで、平戸橋いこいの広場集合、雨天決行で行っています。

（やまはら いさお、平戸橋自然観察『草だらけの会』）



矢作川右岸の道沿いを観察する参加者（平戸橋下流右岸）

# 研究所の 調査風景

5月5日(土)・6日(日)

古崩地区で春季の陸上昆虫を調査しました。調査は古崩プロジェクトの横断面調査の一環で、エコトーン(水中-水際-陸上にかけての移行帯)の生物社会をみる目的で行っています。5日から6日にかけては地上を徘徊する昆虫類を採集するベイトトラップ調査を実施しました。古崩左岸の汀線、林沿部、竹林内の3箇所にトラップを設置し、虫を誘引する餌にはカルビスと古崩で釣ったオイカワを用いました。昨年9月の



丸藪池(下池)

豪雨で竹林内は80cmほど堆砂しましたが、今回の調査でクロナガオサムシがかかっていました。生き残っていた個体なのか、よそからやって来たのかわかりませんが、地表の昆虫類も回復の兆しが見られ出しました。また、イシガメのコガメが汀線のトラップに入っていました。餌に使ったオイカワの肉を目当てに入ったようです。

5月9日(水)

市の河川課では今年度、市内宮町の丸藪池(彦喜女川流域)で洪水時の遊水池機能を持たせるための工事を行います。同時に良好な景観造りも行いたいとい

うことで、現地を見に行ってきました。市内の西部～南部は開発が進んでいるので、あまり期待しないで行ったのですが、二つの池の周辺が高さ十数メートルの樹木の繁る林で部分的に縁取られており、とてもよい環境だったので驚きました。池のすぐ近くまで開発が進んでいるのですが、周辺にはコナラやアヘマキの林と竹林、社寺林などでしか見られない(それも少ない)イチイガシの大木の林があり、湿地になっている一角にはジャヤナギ(高木になるヤナギ)林がありました。池の中も生物の気配が濃く、サギなどが始終採餌しにおとずれていました。まさにオアシスのような一角で、ぜひこの良好な環境を維持しながら設計を行って欲しいと思いました。



ベイトトラップ設置風景



## おしらせ

矢作川『水の賛歌』と題したパンフレットができあがりしました。矢作川をより広く深く知っていただく目的で作成しました。すでに多くの方々にはご覧いただけたと思います。是非、ご感想やご意見などをお聞かせください。まだ、お手元に届いていない方は研究所までお知らせください。

## 編集後記

矢作川周辺の緑は日増しに彩りを濃くしています。川辺にたずんでさわやかな風に吹かれる季節も意外と短いものです。去る5月12日・13日に矢作川「川会議」と筏下り大会が開催され、矢作川のベストシーズンを満喫しました。

これからの川の調査は暑さとの戦いですが、より美味しいアユをいただくためにもカワシオグサの調査に精進しようと思います。(内)

ご意見・ご感想をお寄せください